

国語

出題の傾向

1次・2次とも大問が3問です。【一】は物語(小説)から、【二】は自然科学や随想などからの総合読解問題、【三】は慣用句など言葉についての問題を出題しています。物語は基本的に「感動」ともなった「愛情」「友情」などを主題としたものから出題しています。

2017 今年度の出題と解説

1 次入試

全体として【一】・【二】では、「漢字の書き取り」「語句の意味」「擬態語・擬声語」「文法」「穴うめ」などの問題の他、「登場人物の心情」「主題」を問う設問を必ず出題しています。また、記述の形で説明を求める問題もいくつか出題しています。【三】は、例年「言葉の知識」を出題しています。漢字のなりたちや意味・慣用句・ことわざ・四字熟語などが中心です。本年度は、1次で「慣用句」2次で「四字熟語」を出題しました。

それぞれの試験で、全体で約30問程度。レベルは1次より2次を難しくしています。全体的に見て、ふだんから文章を読むことに慣れていないのではないかとされる答案が多くありました。大まかにどのような話なのかさえも、つかみきれていないのではと思われる答案もありました。説明を必要とする設問で、ポイントを外してしまっていることでわかります。ふだんからいろいろな文章になれ親しんでください。新聞でもいいです。あるいは小説を数ページずつでもかまいません。毎日文章に接することが大切です。その際、重要と思われる所に線を引きながら読み進めてみてください。試験でも同じことです。上宮の入試問題の【一】は、例年かなり長めの文章です。ポイントを探しながら読み進める方法をマスターしておかないと、試験中に2回、3回と読み返している時間はないと思います。長文全体をできるだけ早く正確に読むことが前提ですが、重要なところに線を引きながら読み進めることをマスターしておけば、正解を探すのに苦労はしないはずです。

説明をするときの文のしめくくりの言葉も、決まっています。ことがらについて説明するときには「～こと。」の形、理由を説明するときには「～から。」の形でしめくくります。それらの言葉でしめくくらないと、「説明」をしたことにはなりません。これは基本的な知識です。その基本のできていない答案が目立ちました。注意してください。

また、漢字を正確に覚えていないと思われる答案も目立ちます。音だけが合っている当て字の解答が多く見られたのには驚かされました。ふだんノートを取ったり、文章を書いたりするときに、当て字を平気で使う生活をしていませんか。必ず漢字は意味もいっしょに覚えてください。漢字一つ一つには、それぞれ固有の意味があります。そしてそれらを組み合わせると一つの意味を表すのが熟語です。意味もいっしょに覚えないと漢字を覚えたことになりません。また、形の悪い漢字も目立ちました。筆順をまちがっているのでしょう。漢

字は筆順も大切です。特に筆順は書き取り問題では問うことはできませんが、筆順がちがうと、漢字の形が整いません。部首や画数も意識して漢字を覚えていますか。部首も漢字の形に関係してきます。バランスが悪いと、別の部首の漢字に見えてしまいます。画数も意識をしながら漢字は覚えてほしいと思います。1画で書くべきところを2画で書いたり、また、その逆もありました。最初に教科書に出てきたときに、正確に漢字を覚えてください。最初が肝心です。最初にまちがえて覚えると、今後中学・高校と進んでいく中で苦労が増え、国語力が身につけにくいこととなります。悪いくせは今のうちに直しておきましょう。

また、語句の意味を正確に覚えていないと思われる答案もかなりあります。ふだんからいろいろな文章を読んで、どうしてもわからない語句が出てきたら、めんどくがらずに辞書を引いてください。そのひと手間が、君たちの語句の知識を豊富にしていき、読解力の基本をつくっていくのですから。

非常に残念だったのは、設問の指示にしたがっていない答案が多かったことです。記号で答える設問なのに、言葉や漢字をそのまま書いてしまっていたり、指定した字数に足りていない答えを書いていたりとあります。字数の指定がある場合は、少なくとも8割をこえないと、まったく得点にはなりません。まずは設問をしっかりと読んで確認をしてください。入試では、答えの内容が合っても指示に従っていない答案は、残念ながら得点にはなりません。せっかく答えがわかっているのに、指示に従わなかったばかりに得点にならないのはもったいない気がします。「文中のことばを使って」と「文中からぬき出して」のちがいが、しっかりと意識しておいてください。「～ぬき出して」とあれば、君たちが文章に手を加えてはダメです。書いてあるとおりに書き写すのが「～ぬき出して」であり、「～使って」とあれば、文中の語句をぬき出したものを、指示に合うように自分で工夫をするのです。これができていなくて、得点に結びつかなかった答案がかなりありました。

文法の設問は必ず出題しています。言葉のきまりも文章を読んでいくうえでの、大切な手がかりになります。毎年同じような設問を出していますので、過去問をきちんと勉強して、傾向をつかむことが大切です。

以上のことがらのすべてに共通して言えることは、「ふだんから言葉に出会ったときに、どのような意識でその言葉に接しているか、ということが一番大切なことです。言葉を意識し、言葉に敏感になって、普段の生活を送ってください。それでは、具体的に入試問題を見ていくことにします。

1 次入試

【一】

- 問1 漢字の書き取りの問題です。全体で6割ほどできていました。〈あ〉は「達」の「しんにょう」が正しく書けていない人が多くいました。また、〈え〉の「応」の誤りが目立ちました。
- 問2 語句の意味を問う問題です。傍線部の前後の言葉をヒントに答えを探しましょう。aは直前に「果南は、指の先まで緊張が走るのを感じたけれど」とあることをヒントにすれば、答えが分かります。a・bとも7割ほどできていました。
- 問3 「果南」の気持ちを問う問題です。傍線部①「一回、演奏を聴いただけで、そんなことまでわかるなんて」の後に続く言葉を考えれば、すぐに答えが見つかります。ほとんどの受験生ができていました。
- 問4 A～Dともによくできていました。文のつながりに着目すると、答えが見つかります。
- 問5 涙のわけを問う問題です。吹奏楽部のみんなは透子に本物の虹を見せてもらったことで、どんな気持ちになったのかを考えましょう。傍線部直前の「薫の目にも感動の涙が光っていた」ことも手がかりに正解を選びましょう。選択問題であることもあり、大変よくできていました。
- 問6 「の」の働きを問う問題です。傍線部③の「えこひいきするのはよくない」の「の」は、「こと」に置き換えられます。それと同じものをア～エの中から選びましょう。
- 問7 「果南」が新藤先生のだのどのようなことに対して怒っていたかは、傍線部④の直前の先生の会話文を読めば分かります。「担任としては最低」なこととは、どのようなことかを考え、「こと」につながる語句を抜き出しましょう。正答率は8割程度でした。「退職」の「退」の誤りが目立ちました。
- 問8 漢字の成り立ちを問う問題です。正答率は7割ほどでした。「ア」「エ」の誤答もありました。
- 問9 に入る透子のせりふを選ぶ問題です。「透子の「思いがけないハンノウに」「果南」は「胸がおど」ったことを手がかりに答えを選びましょう。

問10 「透子の失ったもの」とは、かつては透子にあったものです。傍線部直後の言葉に着目しましょう。ぬき出すときの誤字脱字がありました。

問11 「果南」の透子に対する気持ちを問う問題です。「果南」は透子にどんなことを願っているのかを考え、答えましょう。とはできていましたが、に入る言葉が傍線部から少し離れていたためか、5割程度の正答率でした。

【二】

- 問1 書き取りの問題です。〈う〉「業績」を「業積」と書いてしまう誤りが目立ちました。また、〈え〉「宇宙」を正しく書けていない答案もありました。
- 問2 「が痛む」とは、前後の内容から「つらい気持ち」になることを意味する慣用句であることがわかります。身体の一部を表す漢字の中で、「頭」・「足」などの誤答もありました。正答率は6割ほどでした。
- 問3 表現技法を問う問題です。「自然が悲鳴をあげている」という表現からは、人間以外のものを人間にたとえていることがうかがえます。
- 問4 本文では、「木の働きや森林の働き」の具体的な例としては、の直後の「大気中の二酸化炭素を吸収してきれいにしてくれている」ことが述べられています。正答率は6割ほどでした。
- 問5 筆者が樹木医として、講演会などで伝えようとしていることは、「人と自然とのつながり」であり、私たちは「自然の恩恵を受け、守られている」ことが分かります。イの「植物のくわしいつくり」やウの「自然保護の必要性」ではないことを、文章全体から読み取りましょう。
- 問6 筆者の意見をまとめる問題です。傍線部③の4行ほど前に、「環境を守ろうとか、自然を守ろうなど、それはごうまんな考え方ではないでしょうか。」という筆者の言葉から、私たちはどういう存在なのかを読み取りましょう。時間が足らなかったのか、2が書けていない答案もありました。正答率は、1で7割、2は5割ほどでした。

【三】

慣用句やことわざを問う問題です。知っている人と知らない人の差が大きく出たようです。日ごろから慣用句やことわざ・四字熟語などについては、しっかりと学習しておきましょう。

対策と アドバイス

とにかく、過去問をできるだけ多く解いて、上宮の入試問題に慣れておくということです。そして語句の意味や漢字・慣用句といったものは、常日頃から意識して身につけていかないと、なかなかテストで答えられるようにはなりません。できるだけ早い時期に上宮受験を決めて、対策を始めてください。